

## 第 23 回 農業高等学校生意見文全国コンクール審査講評

審査委員長 小池 安比古

本コンクールは、農業や農業関連産業の後継者・従事者として、また農業指導者や農業に対するよりよい理解者として、わが国の農業を支えることが期待される農業高等学校生を対象に、農業および農業を取り巻く様々な環境に対する思いを意見文にまとめることにより、農業に対する意識を高めるとともに、学校生活や勉学の一層の充実を期して開催しています。

おかげを持ちまして、今年度で 23 回を迎えた本コンクールには、全国の日本学校農業クラブ（FFJ）に加盟している農業高校および農業関連学科に所属する FFJ 会員の高校生から 18 件の応募がありました。応募してくださった皆さんには、心から感謝申し上げます。

応募の作品には、自身の農業体験、地域活性のための実践活動などについて高校生らしい感性で自分の気持ちを伝えるものばかりでした。これらの意見文について、課題と内容の整合性、文章の論理性、説得力、さらには農業高校生としての自覚と内容の適性、意見の妥当性や建設性、将来への熱意など、幅広い観点から厳正な審査を行ないました。その結果、1 名の作品を最優秀賞、3 名の作品を優秀賞として選定いたしました。

最優秀賞には朝倉春菜さんの『山鹿産和栗と赤鶴の可能性に魅せられて～国際交流から見えた商品開発の取り組み～』が選ばれました。熊本県山鹿市の名産である和栗と赤鶴を原料とした新しいソーセージを開発、地域のブランド品として努力を重ねたプロセスが高く評価されました。

優秀賞に選ばれた関口陽一斗さんの『野生動物との共存を目指して』は、祖父母が暮らしておられる福島県喜多方市周辺で起こっている獣害に焦点を当て、自分なりの具体的な獣害対策が述べられています。折しも昨年来、各地でクマによる被害が報じられていますが、今後の中山間地域のあり方のヒントになると思います。

同じく優秀賞に選ばれた森 彩音さんの『On my marks～お米の未来を照らし続けるために～』は、「令和の米騒動」としての日本の米の価格高騰を背景に、米農家を支えるには、米の消費を拡大するにはどうしたらよいかという課題に米粉マドレーヌ、米粉餃子そして米粉麺といった米粉による高付加価値化への挑戦の経緯が綴られている点がユニークです。

また、山森充貴さんの『農高生が育てる「農中生」—耕作放棄地の問題解消に向けてー』は、耕作放棄地の再生に農業高校の生徒に加え、地元の中学生も加わることで、耕作が放棄されている農地が新たな価値を生み出していく農地になるのだ、という強いメッセージが込められている点が優秀賞に選ばれたポイントです。

米の価格高騰、中山間地域の獣害、都市周辺部への相次ぐクマの出没など、農業をはじめ、人と自然との関わり方が課題となって現れています。どれをとっても一朝一夕に解決できるものではありません。農業高校、農業関連学科に学ぶ皆さんをはじめとする若い世代の発想、アイデアが、きっとこれらの課題解決につながるはずです。

今回の農業高等学校生意見文全国コンクールでも、多彩な魅力ある若い世代の意見、声が多数寄せられることを大いに期待しています。